

中学生は「公民」、高校生は「政治経済」をしっかりと学ぼう
—トランプ相互関税による、自由貿易・戦後秩序の転換に備えよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：トランプ・米国大統領が4月2日に発表した、全世界を対象にした相互関税は、米国内も含め、世界中に大きな衝撃を与えています。なぜこのような政策を打ち出したのでしょうか。

A：トランプ氏は、歴大化する米国の貿易赤字と、米国の製造業の衰退を心から憂え、貿易赤字の解消と米国の製造業を再生するためには、相互関税しかないと確信し、このような発表をしたものと思われま

Q：日本政府、企業・国民はどのようにしたらよいとお考えですか。

A：(1) 政府は、与野党の協力を得て、一丸となって、外国交渉を粘り強く積み重ね、米国に相互関税の撤廃・緩和を訴え続けると同時に、世界各国との経済連携を強め、米国相互関税の影響を低下させる。これ以外ありません。

(2) 輸出企業・輸入企業は、トランプ大統領の言動や各国の反応に、一喜一憂・右往左往することなく、本業重視、何があっても大丈夫なように、ありとあらゆる場合を想定し、心を一つにして、企業活動の持続的発展に尽力する。これ以外ありません。

(3) 日本国民は、世界で、今何が起きているのか、しっかり情報を収集。自分の力で、これからどうするかを考え、行動する。これ以外にありません。

Q：政府、企業、日本国民が、トランプ相互関税について考えるときに大切なことは何ですか。

A：(1) 少し遠回りかもしれませんが、「相互関税」とは何か。「相互関税」が、自国の経済、相手国の経済、地域の国々の経済、世界経済に及ぼす影響を考えることが大切です。

(2) これを考えるときに欠かせないのが、「分業」とは何かから出発して、「経済」「国際経済」「経済連携」とは何かなど、ていねいに、一つ一つの知識を学び、自分のものとして、積み重ねることが求められます。

(3) 幸い、日本では、中学3年の「社会」で「公民」を、高校3年の「公民」で「政治経済」を学ぶことができます。中学「公民」、高校「政治社会」では、「経済学」の基礎基本、「国際経済」や「経済連携」の基礎基本を学ぶことができます。

(4) 新聞記事をしっかりと読み、TV やラジオでの解説番組を視聴し、今何が世界で起きているかを学びながら、同時に、中学「公民」、高校「政治経済」の「学校教科書」や「参考書」「用語集」をていねいに学ぶことが大切です。

(5) ①また、やさしく書かれた、「経済学」や、「国際経済」「経済連携」の解説書、新書本、教科書がたくさん出版されています。

②やさしく書かれた「マクロ経済学」「ミクロ経済学」の本もたくさん出版されています。

③書店・図書館・古書店に行けば、数多くの関係する本を見つけることができます。

(6) 少し興味が出てきたら、アダム・スミスの「国富論」を手にとってじっくりお読みください。ブロック経済とは何か。世界大恐慌はなぜ起きたのか。第一次世界大戦、第二次世界大戦はなぜ起きたのか。戦後の経済連携協定はどのような歴史をたどり、現在に至ったのか。「歴史から学ぶ」べきことは、たくさんあります。

Q：トランプ大統領や、米国政府の貿易政策当局はこのような勉強をしなかったのでしょうか。

A：(1) 一度はどこかで学んだのですが、しっかり勉強しなかった、自分のものになっていなかったとしか考えられません。

(2) 日本でも、また、世界でも、中学生・高校生・大学生・大学院生だけではなく、社会人も、一度学校などで学んだことを、もう一度「学び直す」。ゼロから、「経済学」「国際経済」「経済連携」を学び直す以外ありません。トランプ大統領が何を発言しても、各国がどのような反応をしても、「一喜一憂」「右往左往」しないくらい、自分の力で学び続ける。新聞も、毎日ていねいに読み続ける。

(3) インターネットや、AI は活用するけれども、すべて正しいと考えない。批判的思考能力を身に着けることが大切です。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1) ドイツやフランス、イギリスなどで台頭しているのは、若者のポピュリズムの動きです。日本の中学生・高校生には、しっかり「公民」「政治経済」で「経済学」「国際経済」「経済連携」を学ぶようご指導ください。

(2) 日本や世界の近現代史の勉強も、しっかり行うようご指導ください。

(3) 新聞を、毎日、ていねいに読み、いま世界で何が起きているかを知るようご指導ください。経済学の古典や、やさしい経済学の解説書、新書本、文庫本を、少しずつでも、ていねいに読むようご指導ください。そして、「学んだことを自分のことばでいえる（表現・説明できる）」「深い理解」を目指すようご指導ください。

Q：最後に一言どうぞ。

A：僭越とは存じますが、今月も、先生方がお読みになれば参考になる本を、何冊かご紹介させていただきます。

(1) ①一冊目は、アダム・スミス著山岡洋一訳「国富論： 国の豊かさの本質と原因についての研究（上）（下）」日本経済新聞出版社 2007年3月23日刊です。

- ②アダム・スミスの解説書としておすすめは、高島善哉著「アダム・スミス」岩波新書 1868 年刊、永田洋著「アダム・スミスー自由主義とは何か」講談社学術文庫 1997 年刊、堂目卓生著「アダム・スミス：『道徳感情論』と『国富論』の世界」中公新書 2008 年刊の 3 冊です。
- (2) ①二冊目は、ユヴァル・ノア・ハラリ著「NEXUS 情報の人類史 (上) (下)」河出書房新社 2025 年 3 月 5 日刊です。素晴らしい内容です。
- ② NEXUS とは、つながり、結び付き、絆、中心、中枢の意味です。
- ③石器時代からシリコン・AI まで、組織・ネットワークが力をつけます。
- (3) ①三冊目は、遠藤誉著「米中新産業 WAR ートランプは習近平に勝てるのか？」ビジネス社 2025 年 3 月 15 日刊です。半導体以外、すべて世界のトップを行く中国をアメリカは超えられるのか。
- ②遠藤誉著「中国製造 2025 の衝撃」PHP2019 年 1 月 11 日刊で紹介された、中国製造業の取り組みは、着々と現実のものとなり、トランプ大統領に相互関税を取らせるまでに、中国は力を付けました。
- ③日本の政府、製造業、産業、国民はどうしたらよいか。この 2 冊をしっかりと読み、考えましょう。
- (4) 四冊目は、作新学院大学学長、渡邊弘先生の最新著「教育の危機と現代の日本一人間教育からの改革」東洋館出版社、2025 年 3 月 25 日刊です。本書は、①「教育の歴史的問題」②「教育思想の問題 (とりわけ、人間観・子ども観)」③教職・教員養成の問題」④「教育連携体制構築の問題」⑤「生涯学習の問題」、どこに各々の根本的な問題があるのか。
- (5) ①五冊目は、立田慶裕編著「読書教育の方法：学校図書館の活用に向けて」学文社、2015 年 1 月 31 日刊です。最重要は、「読書教育」「図書館の活用」です。
- ②「OECD の PISA 調査の根底となる学力観」をまとめた、OECD 編著「キー・コンピテンシーズ」明石書店 2006 年 5 月 31 日刊の監訳者が立田先生です。
- ③ PISA 調査に耐えらる「読解力」を身に着ける「読書教育の方法論」とは何かを、今からでも、本書で、学びましょう。「積小為大 (せきしょういだい)」。小さいことを、コツコツと積み上げ、大を為す、高い志を為し遂げるといふ、二宮尊徳 (二宮金次郎) の精神は、「読書教育」にもふさわしいと確信します。
- (6) 六冊目は、森信三著「人生論としての読書論」致知出版社 2011 年 4 月 30 日刊、名著の復刊です。「読書教育」の先生用教科書として、是非、ご活用ください。

2025 年 4 月 12 日記